

# 戦略3 研究開発

地域が求める世界レベルの先端研究を推進します。  
～地域産業界に応える科学知とイノベーションの創出～

## ✓世界レベルの基盤的研究を推進

### 大学主導の新規分野横断研究プロジェクト研究費（10,000千円以上）獲得件数



#### 評価指標

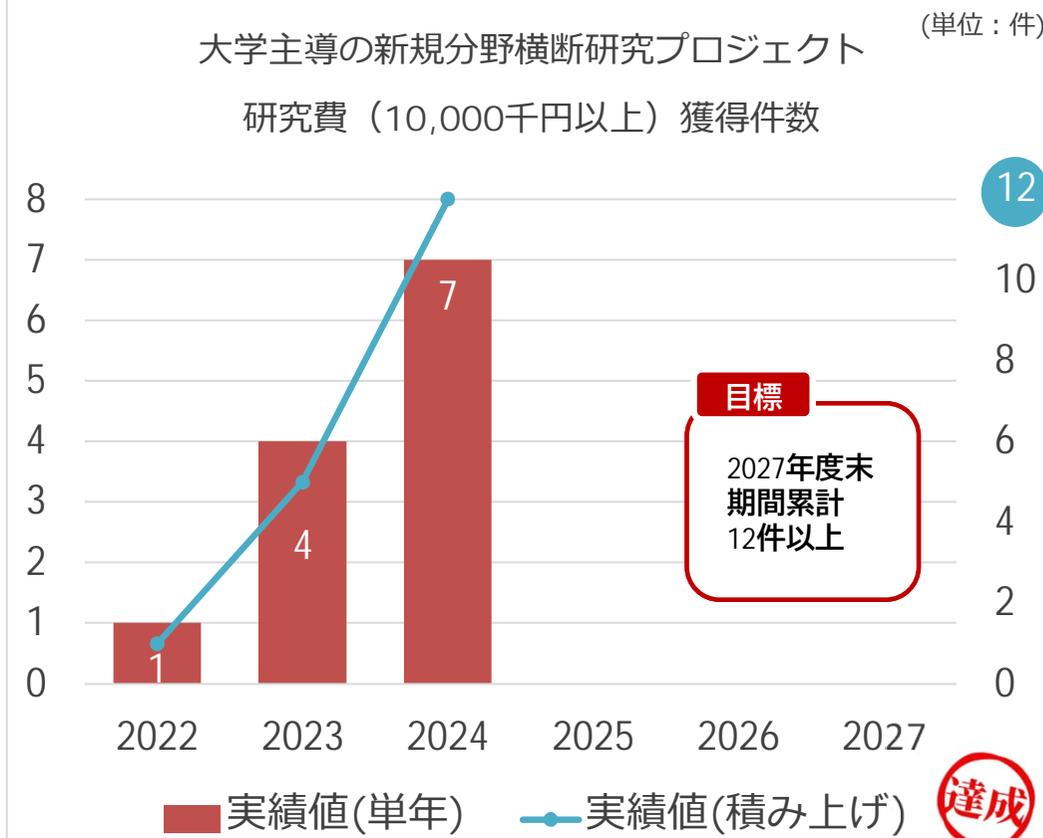
#### 〈融合研究制度〉

海外研究者との連携、若手研究者の育成を目的とする新領域学術院事業の1つであり、異分野の研究チームによる融合研究を実施し、学内に新たな研究開発拠点を形成する。若手研究者を積極的に参加させ、研究者としての成長を促している。

【審議機関】 研究企画院

【支援期間】 3年間

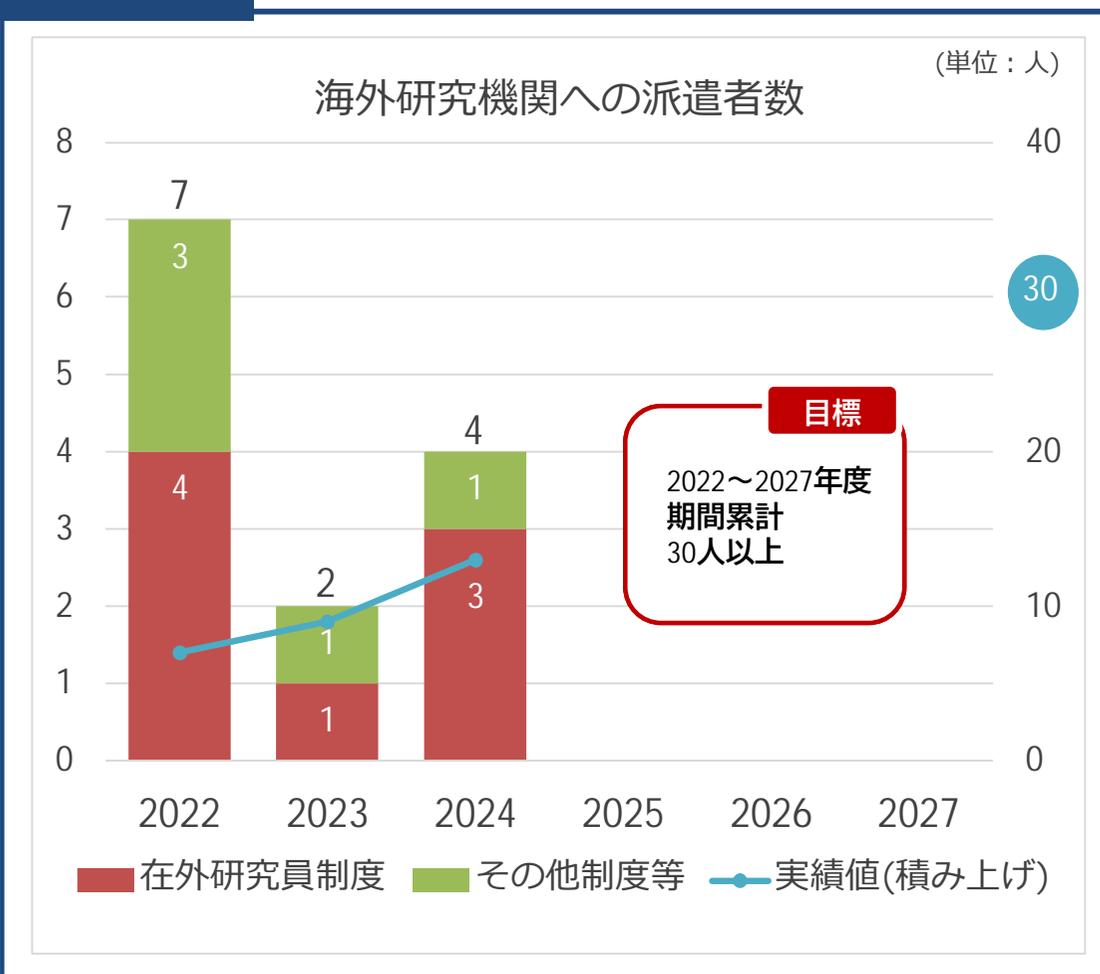
異分野連携のプロジェクト研究を経験することにより、参加教員の大型外部資金（10,000千円以上）獲得力の強化につなげている。



## 在外研究員制度等による海外研究機関への派遣

世界レベルの大学との組織的グローバル研究連携を強化するため、本学の将来を担う優秀な若手教員を中心に長期の海外派遣を推進している。特に在外研究員制度は、大学等研究機関において長期間研究に専念させる本学独自の制度であり、本制度の積極的活用を学内へ呼びかけている。

### 評価指標

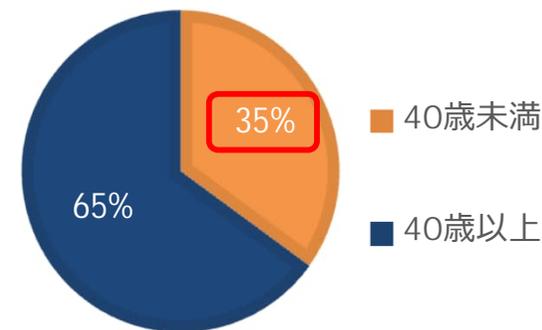


### 〈2024年度 在外研究員制度実績〉

#### ○派遣先

- ・ カタルーニャ工科大学 (スペイン)
- ・ コインブラ大学 (ポルトガル)
- ・ ウォーターラー大学 (カナダ)

(2022-2024派遣者の年齢構成割合)



在外研究員制度の利用者、若手教員の海外派遣者数は伸び悩んでいる。

# ✓研究力向上に向けた大学院学生への支援

## 「博士」になろう！～博士を志す学生のための新しい支援プラン～

2025年度からの博士支援制度の新設を決定。博士後期課程への進学希望者の増加と、博士人材の一層の活躍促進を目指す。

日本学術振興会の特別研究員(DC)制度と連動した

### ✓ 全力サポートプラン (経済的支援)

DCに採用された場合、年間160万円の支援

### ✓ 「特定助手」の呼称付与

研究者としてのステータスを確立

※DCに不採用の場合でも、一定以上の結果を得た学生を対象として年間80万円又は40万円の支援を行う

未来の領域へ挑め!あなたの好奇心が世界を動かす

「博士」は国際的に通用する最上位の学位です。博士を取得した者は工学分野を深く知る人物として信頼され、キャリアアップやビジネスチャンスの可能性を拓けることにつながります。名古屋工業大学は、あなたの未来に投資し、あなたの挑戦を全力でサポートします。もっと知りたい、もっと挑戦したい、博士後期課程がその答えです。

「博士」になろう!

新しい支援プラン登場!

日本学術振興会特別研究員(DC)制度と連動した

✓ 全力サポートプラン(経済的支援)

✓ 「特定助手」呼称付与

名古屋工業大学

## 博士グローバルアカデミー講演会

2024年11月13日(水)に第4回博士グローバルアカデミー講演会を開催し、250名を超える学生が聴講した。博士後期課程への進学希望者の増加と博士人材の活躍促進が期待される。

### <講演テーマ>

○文部科学省「博士人材活躍プラン」のねらいと大学への期待

文部科学省高等教育局企画官(併)高等教育政策室長 高見 英樹 氏

○企業における博士人材スペシャリストへの期待と働く環境について

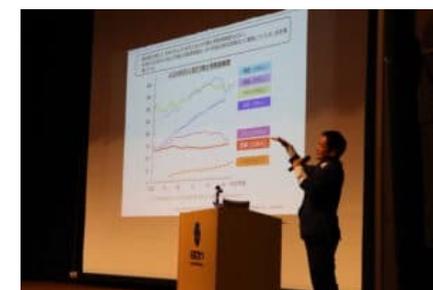
東海光学ホールディングス株式会社 管理部 課長 富田 晃弘 氏

○博士人材のキャリア：研究の社会実装を目指したスタートアップ起業

株式会社CAST代表取締役 中妻 啓 氏

○名古屋工業大学における博士進学支援

名古屋工業大学理事(併)博士グローバルアカデミー院長 柿本 健一



文部科学省高等教育局 高見英樹氏のご講演



質疑応答の様子

# ステークホルダー会議委員による所見【戦略3】

- 民間や大学の持つ先端技術が軍事技術に転用されていないか国も心配しており、経済産業省としても他省庁と連携して経済安全保障政策を進めている。名古屋工業大学においても、安全保障貿易制度、特に大学における技術の提供に特化して解説した動画コンテンツを活用し、技術管理の意識向上に御理解、協力をいただきたい。
- 中部地方の企業には博士課程で卒業する人が少ないという話があったが、日本の競争力を上げるためには博士人材の活用が欠かせない。理解は少しずつ深まっているが、博士に対するイメージが昔のまま、アカデミアに進むものとなってしまうので、若い人が活躍している姿が企業にうまく伝わると変わってくると思う。企業の中でも、修士で入った人を大学に送る取組や、博士を採用することに消極的な企業を変えていく取組が進んでいる。モデルとなる人が見えるようになると、理解が深まるのではないか。

# 2024年度実績【戦略3】

## ✓世界レベルの基盤的研究を推進

### テストハウス活動の活発化

2021年度に未来通信研究センターに設置したテストハウスにおいて、4月より企業・大学などにおける研究開発レベルの試験や、規格適合試験を実施するテストハウス活動を活発化させた。関連する政府研究開発プロジェクトおよび企業との共同研究の増加により、共同研究等の獲得額は順調に増加している。（2023年度ステークホルダー会議報告時の獲得実績：約3,840万円）

- |                       |          |            |
|-----------------------|----------|------------|
| ①民間企業との共同研究、受託研究、学術指導 | 約5,400万円 |            |
| ②受託試験（共用設備を用いた都度の試験）  | 約400万円   | 合計約5,800万円 |

※①は11月末時点、②は9月末時点の実績

テストハウスの本格稼働に伴い、未来通信研究センター全部門における企業・国からの外部資金獲得額も、12月時点で約1.4億円に達し、昨年度実績（7,046万円）を大きく上回っている。

## ✓グローバル連携による世界レベルの研究を推進

### 海外の大学等からの研究者招へい

国際的に活躍する外国人研究者を招へいすることにより、学内研究者との国際共同研究の活性化を目指し、2024年度は12月時点において32名を招へいした。そのうち、融合研究の研究チーム(3チーム)は、招へい研究者を11名招致しており、研究チームに参加する博士後期課程学生やポスドク等が世界レベルの融合的／学際的研究に関わることにより、若手研究者の成長や国際的な視野を広げることにつながっている。

## 国際共著論文

海外との研究ネットワークの構築を進め、国際的な共同研究を推進した成果として、2022年1月から2025年12月までの期間において、本学教員等が責任著者となっている国際共著論文は、計229報（2024年：66報）となった。今後も研究者招へい事業や本学研究者の海外派遣事業を中心に、引き続き論文数の増加を図る。

## ✓研究力向上に向けた大学院学生への支援

### 各種支援

大学院学生への主な支援内容	
学生研究奨励	研究実績のある大学院生に奨励金（10万円×10名、5万円×40名）
国際学会発表支援事業	博士前期課程在学時に海外で開催される学会での発表を目指す学生に対して、助成金として支援（30万円×7件）
若手研究者支援基金	博士後期課程学生への研究費を支援（50万円×3名）
学生Q1ジャーナル賞	Q1ジャーナルに論文掲載された大学院生への褒賞（50万円×7名）
博士後期課程学生の授業料免除	-
NI Tech PGCサポートプログラム	<ul style="list-style-type: none"><li>・特別研究員DC申請支援 （特別研究員DCを目指す大学院生に対して、申請書の書き方セミナーや過去に採択された応募書類の閲覧をさせた）</li><li>・学生団体が主催しているドクター交流会の支援</li><li>・ドクター進学支援（ドクターコース説明会を開催）</li><li>・修士学生のためのスキルアップセミナー （英語論文執筆、英語プレゼンテーション、申請書データの提示方法、いずれもwebセミナー）</li></ul>
国際交流事業	研究インターンシップや留学支援
スタートアップ助教制度	助教として採用すると同時に、在職中に博士の学位取得を目指す